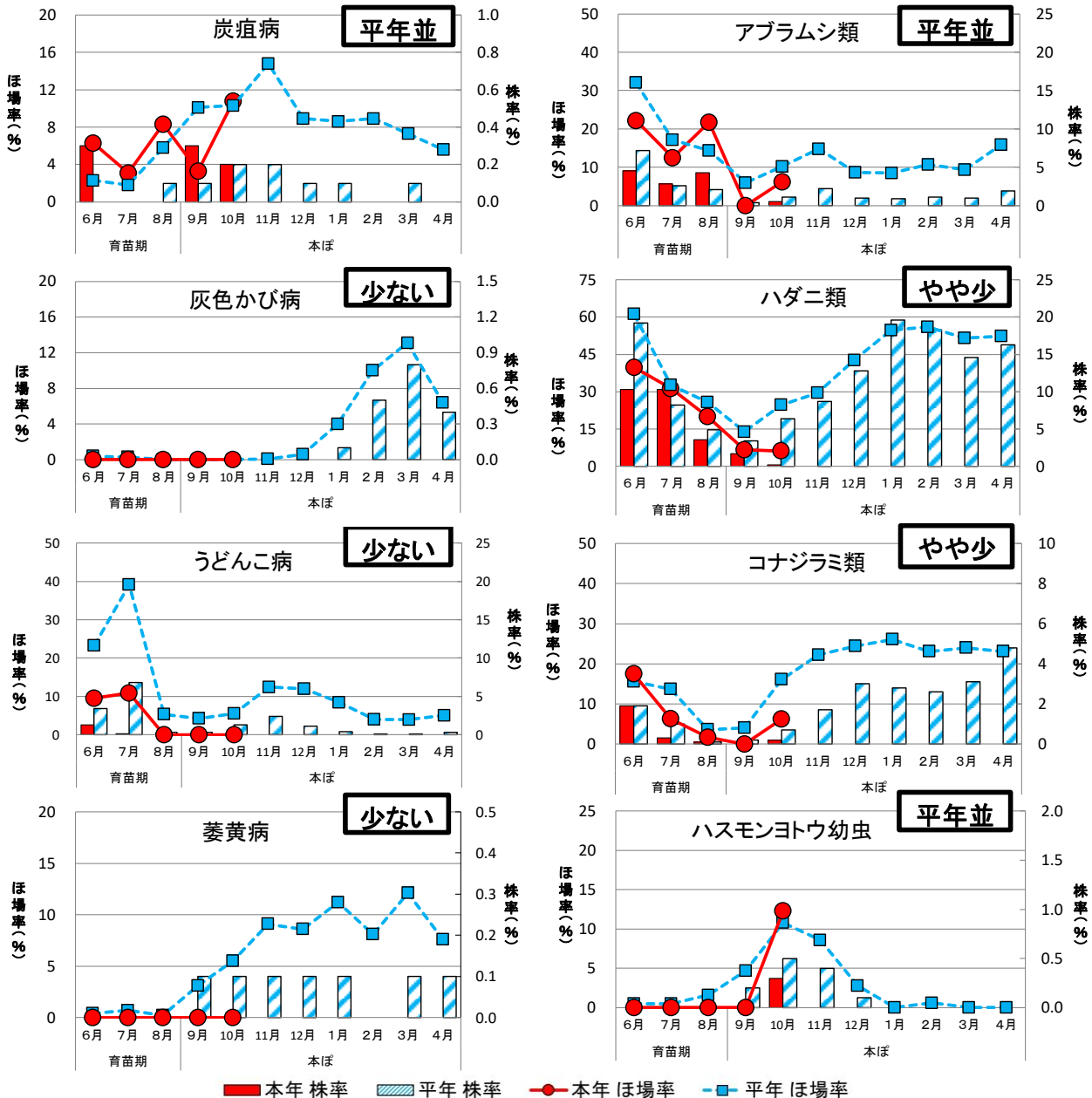


# いちご病害虫情報第5号 (10月)

令和4(2022)年10月21日  
栃木県農業環境指導センター

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%):発生株数/調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数/調査ほ場数

## ■ 今月の防除ポイント

### — うどんこ病の対策 —

保温開始までに防除を徹底し、発生を抑えましょう。

1. 日照不足等で、株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
2. 予防を主体に、ベルコートフロアブル(F:M07)等を使用する。
3. ほ場を良く観察し、発生が見られたら、シグナムWDG(F:11、7)等の薬剤を葉裏によくかかるよう散布する。
4. 寒暖差による結露に注意する。

## ■ 今月のトピックス ハダニ類

いちご栽培において問題となるハダニ類は、主にナミハダニ、カンザワハダニの2種類です。ハダニ類による被害は葉の食害で、多発すると株が生育不良となります。

ハダニ類は化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RACコードの異なる薬剤のローテーション散布を行いましょ。天敵製剤や気門封鎖剤は薬剤感受性の低下したハダニ類に対しても有効であり、化学農薬の散布回数を大幅に減らすことができるため、積極的に活用しましょ。

### <天敵製剤(カブリダニ類)の使用にあたって>

- 天敵製剤は必ずハダニ類の発生前に放飼する。ハダニ類の発生が多いときは、放飼前に天敵に影響の小さい薬剤や気門封鎖剤でハダニ類の密度を下げる。
- ハウス内をこまめに見回り、天敵が定着・増殖しているかを確認し、状況に応じて追加放飼することで、より安定した効果が期待できる。

### <気門封鎖剤(物理的防除剤)の使用にあたって>

- 直接ハダニ類にかからなければ効果が得られないため、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。
- 気門封鎖剤の多くは殺卵効果がないため、卵から孵化した幼虫・成虫に対し5～7日程度の間隔で複数回散布する。
- 薬剤によっては混用により薬害を生じるものもあるため、ラベルをよく確認して適切に使用する。



写真1 ナミハダニ雌成虫  
(光沢のない楕円形：約0.60 mm)



写真2 ナミハダニ卵と幼虫  
(正円形の卵：約0.10 mm)



写真3 チリカブリダニ成虫  
(光沢のある涙型：約0.45 mm)

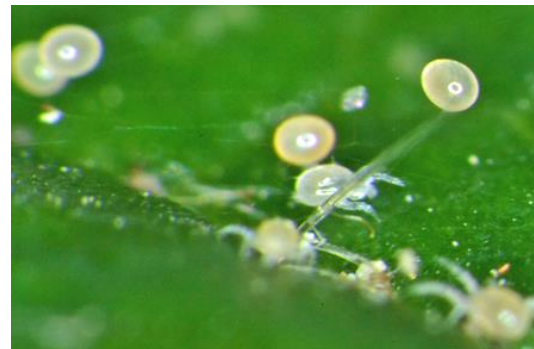


写真4 チリカブリダニ卵と幼虫  
(楕円形の卵：約0.20 mm)